PART1　2つの「なり」（断定・伝聞推定）

2つの「なり」

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	なり（断定・存在）	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ	形容動詞型
	なり（伝聞・推定）	○	なり	なり	なる	なれ	○	ラ変型

〈「断定・存在」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　」＋あり

①　存在（〜にある・〜にいる）

※「　　」**（方角）**＋なり

②　断定（〜である）

〈「伝聞・推定」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　」＋あり

①　伝聞（〜とかいうそうだ）

※人から聞いた噂などの場合

②　推定（〜ようだ）

※「音」に関わる言葉がある場合

〔例題一〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　今年蔵司の小使にてまかり渡り候ひつるなり。

②　舟の内なる者ども、これが仕業を見るに、…

③　人々あまた声して来なり。

④　親の為思はぬなり。

問一　「中ならん物はさながら取れ」の「なら」と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　心に思ふことを見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。（『古今和歌集』）

ロ　この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）

ハ　三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ヘ　物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな　（『和泉式部集』）

第12講　PART1　確認問題

①「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能
オ　断定　カ　伝聞・推定　キ　完了　ク　当然

②「しかしか、いと興ある事なり。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　完了　イ　推定　ウ　断定　エ　伝聞　オ　尊敬

③波線部ａ・ｂの「なり」の文法的意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

男もすなる[a]日記といふものを、女もしてみんとてするなり[b]。

ア　ａ　伝聞　ｂ　伝聞
イ　ａ　断定　ｂ　断定
ウ　ａ　伝聞　ｂ　断定
エ　ａ　断定　ｂ　伝聞

④　傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

我が庵は都のたつみしかぞ住む世をうぢ山と人はいふなり

ア　人々はうわさしているそうだ
イ　人々はうわさしているのだろうか
ウ　人々はうわさしていたのだった
エ　人々はうわさしていなかっただろう

⑤　「世の中よ道こそなけれ思ひ入る山の奥にも鹿ぞ鳴くなる」の「なる」と同じ意味で用いられているものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「心澄まさむ人は見ぬべきさまなる、…」
イ　「御局（みつぼね）は桐壺なり。」
ウ　「同じ心なる友なくてただひとり眺むるは、…」
エ　「妻戸をやはら、かい放つ音すなり。」

第12講　PART1　解答

〔例題一〕　①　断定　②　存在　③　（伝聞・）推定　④　断定

問一　ロ

第12講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「なる」の上が「聞こゆ」。「聞こゆ」はヤ行下二段活用動詞なので、終止形である。よって、カが正解。

②「なり」の上の「事」は体言。断定の助動詞「なり」は、体言・活用語の連体形に接続する。よって、ウが正解。

③接続する語に注目する。a「なる」は伝聞の助動詞「なり」。サ行変格活用動詞「す」の終止形に接続している。b「なり」は断定の助動詞。こちらはサ行変格活用動詞「す」の連体形「する」に接続している。よって、ウが正解。

④断定の助動詞「なり」か伝聞の助動詞「なり」かを見分ける。「いふ」はハ行四段活用動詞の終止形もしくは連体形だが、この場合連体形に接続する断定の「なり」となる訳が選択肢には存在しない。よって、「いふ」は終止形で終止形に接続するのは伝聞の助動詞であるから、「〜そうだ」などと訳しているものを選ぶ。

⑤問題文の「なる」は「鳴いているようだよ」という意味で、鹿の声を聴いていることから「推定」の意味ととる。ア、イ、ウは体言に接続しているので、断定の助動詞「なり」。エはサ行変格活用動詞「す」の終止形に接続しているので伝聞推定の助動詞。「開ける音がするようだ」と推定の意味をとる。よって、エが正解。

〔解答〕

①カ　②ウ　③ウ　④ア　⑤エ